

# 原発政策に関する公開質問状への回答

1、柏崎刈羽原発の再稼働について、お考えに一番近い番号をお選びください。

②再稼働に反対

2、米山県政で進められていた三つの検証作業「①福島原発事故の原因、②原発事故の健康や生活への影響、③避難計画の実効性」についてお考えに一番近い番号をお選びください。

①引き続いて検証作業を行い、結果がでた時点で自ら判断する。

3、柏崎刈羽原発の今後について、お考えに一番近い番号をお選びください。

③その他

(コメント)

立地地域に住み、原発の無い社会に向けて活動してきた者として、「即刻廃炉」は現実的には困難であることを理解しています。しかし、県民が力を合わせれば新潟から「脱原発社会」への一步を踏み出せるはずだと確信しています。原発推進の官邸の言いなりになるのではなく、県民一人ひとりの手によって新潟の未来を選びとるために、熟議と努力を重ねたいと考えています。

4、柏崎刈羽原発についてのお考えをご自由にご記入ください。

柏崎刈羽原発の再稼働問題は将来世代にわたって県民の命と暮らしが守られるかという重要な課題だと認識しています。  
県と県民がその再稼働の是非を議論・判断する上で、県が進める「三つの検証」は、これまで独自に重ねられたてきた技術的な検証の蓄積の上に、健康・生活や避難などの課題も含め、総括的に検証されつつあり、政府や国会事故調が及ばなかった領域にも踏み込む積極的なものだと考えています。

5、政府（経済産業省）は「エネルギー基本計画」改定の骨子案を発表しています。この骨子案についてお考えをお聞かせください。

二度と原発事故を起こさないためには、できるだけ早く原発をゼロにして再生可能エネルギーを中心とした電源に切り替えなければなりません。しかし今回の計画案は、再生可能エネルギーを主力電源化するとしながら、原発を重要なベースロード電源として 2030 年の全電力量の原発比率 20～22%を維持するとして、従来の目標は変えていません。事実上の原発再稼働路線の明確化であり、これでは原発依存から抜け出す道は開けないと考えます。

また、石炭火力にも依存しており、世界の趨勢から遅れを取っています。

また、再生可能エネルギーの比率目標も低すぎ、より積極的な目標値をめざすべきで、この間の再生可能エネルギーの伸びやポテンシャルから考えてそれは可能であり、その点でも時代の流れに反するものと考えます。